



昴の今日と明日Ⅱ

No.58, Feb.18, 2014 (編集・発行)昴☆共生社会研究所

2週続きの大雪に

思い知らされた社会の脆弱さ

思わぬ大雪に翻弄されて戸惑うばかりの2週間。もしかした今週後半もまた雪かもしれないという。

道路や鉄道、空も交通網はあちこちで寸断され、車中で、2日も夜明かしした人がたくさんいるかと思うと、「近い」からと車を捨てて徒歩で家に帰ろうとして吹雪まかれて凍死した人もいる。

カーポートやベランダの崩落などは当たり前で、職員の中にも関係者の中にもそういう被害にあった人は少なくないようだ。むろん、クリニックも通所サービスも「閉鎖」。他の事業所も我々と同じように降りしきる雪をただ見ているだけだったと思う。

停電などのライフラインにも支障が出た地域もある大雪だったが、考えてみれば、山陰から北陸、東北にかけての日本海側や福島以北から北海道までの豪雪地帯ではごく当たり前の降雪量なのだろう。昨今、過疎化、高齢化が進んだこうした地域では「雪かき」「雪下ろし」をはじめ生き延びるための最低限の仕事さえもできなかつたり、あるいは命がけをするのだという。

そういうことも、今回の大雪を体験して具体的に想像力が及ぶようになってきた。そうか、こんな雪が毎日降るのか、そして何か月も雪に閉じ込められるようにして暮らすのか…。

東日本大震災の時も、大きな揺れに出会わずにすんだこの地域では地震や津波の被害も本気で想像力を働かせねば、我々の社会が実は脆弱きわまりないものにすぎないことに気がつかない。あの時も、交通機関はすべて止まってしまい、家に帰れない人たちが東京中の道路が埋め尽くされた。しかし、そのことも目の当たりにするか実際に何10キロも歩いた人しか実感できないのかも知れない。

2020年には東京オリンピックだそう。東京は今以上に華美に壮麗に化粧をすすめていくだろう。そして

地方も東京に倣ってきらびやかな「開発」をしたがることだろう。でも便利で「早く」で「豊か」になることも、例えば雪で簡単に崩され混乱しか残らない。

そんな「想定外」のこともいつだって起こりかねない。そもそも「想定」そのものが都合のいい希望的観測の中のことでしかない。今回の雪でまさかと思うような混乱と被害に見舞われたが、あの雪も「想定外」といえばよいのか。

こんなに災害に弱いのに…

それでも原発か!?

だから、やはり思うのだ「原発再稼働」なんてありえないと。政府は再稼働を急いでいるし、青森県大間では止まっていた原発の建設工事が再開された。これに対し対岸の函館市(長)は工事の差し止めを提訴した。当然のことである。ひとたび事故が起きれば函館も被災地になるのは明白なのだから。

そもそも地震や津波、台風などの規模とそれによる被害は「想定」できるものなのかといわねばならない。今政府が「再稼働の口実」にしている「世界で一番厳しい」と自画自賛する新基準に基づいて原子力規制委員会に提出された再稼働の適合申請は全国で10カ所16基にのぼる。

だが、「世界で一番厳しい基準」と謳うこと自体が原発というものの存在の矛盾を露呈している。つまり、基準の「厳しさ」は相対的なものにすぎず、どんな事故が起こるのか、そうなればどんな事態になるのかは誰もわからない。しかも、原発を再び動かし始めたら、未だにその方法も場所も決められない核廃棄物の処理は、その莫大な費用と不安を後世に押し付けることになる。それでも、当座の「景気回復」のために再稼働をと安倍政権にあおられ、電気を使うだけの東京都民は「反原発」を明確にできなかった。

あの雪にも耐えられない東京や首都圏がもっと深刻な原発事故に耐えられるのか。これは今という時代を生きる我々の知性が問われている問題だ。